

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

平和施策行政を訪ねて

輪島市『原爆・被爆絵画展』



「相生橋八時十五分―人が降る―」

故・清水正明氏『原爆の図』（全十三点）から
会報『非核・いしかわ』で連載の予定

〒920-0848
金沢市京町 28-8
石川民医連労働組合気付
Tel 076-251-0014
Fax 076-251-3930
ゆうちょ銀行口座
00760-0-15689

非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

雛祭りがすぐそこまで来ている二月二十五日、前夜からの寒波で輪島市へ向かう途上の別所岳尾根道は猛吹雪。昨春からの、非核石川の会「平和市長会議」加盟自治体訪問取材は、年改まって第六回を迎えることになりました。今回は同会議には現在のところ未加盟の輪島市で、訪問先は総務課及び教育委員会生涯学習課です。

当日は、私たちのために清水正明医師の原爆・被爆の絵画が準備された輪島市文化会館の会議室にて、総務課秘書室主査の園又泉さんと教育委員会生涯学習課の社会教育主事・細谷樹史氏に应对いただきました。当会からは、尾西洋子、永山孝一両常任世話人、神田順一事務局長、川本浩平事務局次長が出席しました。

「語らねば、画き残さねば」を受け継いで

清水正明先生が一九九五年に、輪島市へ被爆絵画（十三点）を寄贈された経緯について教育委員会の回答によると――故・清水正明氏（元・清水医院院長、二〇〇四年十一月五日八七歳で死去）が、被爆者として「語らねばならぬ、画き残さねばならぬ」との思いで描いた一三点の油絵について、一九九五年二月二四日、戦後五〇年を機に、市として定期的

輪島風用

平和市長会議は、世界中の都市と連帯し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与することを目的として、広島市及び長崎市が中心となって一九八二年に設立しており、一九九一年には国連経済社会理事会のNGOに登録されている▼平和市長会議では二〇二〇年ビジョン（核兵器廃絶のための緊急行動）を策定し、核兵器廃絶に向けた国際世論の喚起や各国政府等への要請活動を推進するため、広く国内外の自治体に加盟を呼びかけている。その結果、本年三月一日現在までに加盟した自治体は国内では全市区町村の七四・四％に当たる一二七六に及んでいる▼非核の政府を求める石川の会が昨年四月に実施した県内自治体アンケートでは、加盟自治体は金沢市、七尾市、珠洲市、野々市市、内灘町の五市町だけだったが、この一年間にかほく市、川北町、志賀町が新たに加盟した▼平和市長会議への加盟促進では、当会の非核平和施策アンケートや加盟自治体等への取材・報道が一定の影響をもたらしたといえよう。非核平和自治体宣言率一〇〇％の県に相応しく県内すべての自治体が平和市長会議に加盟し、非核平和事業を推進されることを期待したい。（か）

に展示を継続することを願われてご寄贈いただいた
た——。

清水正明医師の

被爆絵画・写真展へのメッセージ

(一九九四年七月三十一日)

地球上で初めて「ヒロシマ」に原爆が落とされた日、一九四五年八月六日、その日広島に居て被爆した者（ヒバクシャ）として、「語らねばならぬ、画き残さねばならぬ」と思いながら、いろいろな制約や事情のために果たせなかったが、約三〇年程前から投稿をはじめ、二〇年前（一九七四年）から絵を画き始めた。

人間の生命には限りがあり、ヒバクシャ自身、否私自身がやがて消え去ることを思えば、技の稚拙や世間の毀誉褒貶（きよほうへん）を気にすることなく、ヤミクモに筆を走らせたのが、この絵です。

幾十年もの間、消える事なく、眼（まなこ）の奥に、そして脳の底に焼き付いた生々しい「像」を「記憶絵」として再現しました。あの時の悲惨さ残酷さを少しでも御汲み取り頂ければありがたいと思います。

市民による非核・平和運動の発展を

今回、非核石川の会で訪問取材することになったのは、「核戦争を防止する石川医師の会」の設立総会（一九八八年一月）で清水正明医師が記念講演をされた二五年前の記録をもとに、「平和市長会議」

加盟自治体取材の一環として輪島市を訪問することになったものです。

輪島市の被爆絵画展は一九九五年より毎年八月の約一週間開催されており、毎年約二〇〇名の方が閲覧され、絵画展や貸し出しへの反響、市民からの感想も寄せられています。細谷社教主事によると、二〇一二年八月に「長期自然体験活動」に参加していた県内外の児童生徒三九名（小学四年～中学二年）を引率して鑑賞したが、一三点の絵を数分かけて長い子では一五分以上も見入っていた、とのことでした。また、輪島市教育委員会では、「清水氏のご遺志は、絵を通して原爆の悲惨さと平和の尊さを感じていただくこととことから、市外へも貸出に応じます。」とのことでした。

被爆絵画の貸し出しも行っている

今後、原爆・被爆絵画を広く一般に公開するため当会にも貸し出したことになりました。また、被爆絵画の写真データの整備や、平和事業の住民への広報活動、「標柱」や「記念碑」、「懸垂幕」の掲示などについてもお願いしました。

さらに、今後、非核平和の諸団体が交流集会などを開催するときには、輪島市の「原爆・被爆絵画展」開催の経緯をご報告いただきたい旨お願いしました。

(文責＝編集部)

東海北信越ブロック 交流会（相談会）を金沢で開催

非核平和の運動は内外で予断出来ない緊迫した状況です。石川県では「非核平和自治体宣言」は全二〇自治体で決議し、「平和市長会議」には八自治体首長が加盟しています（今号「花鳥風月」）。

ブロック内では岐阜、静岡、愛知、三重、新潟、富山、石川、福井、長野の九県の会が活動をしております。

ブロック交流会の目的は、「各県の会共通の悩み、苦勞を率直に出し合い、交流と学び合いを前進の契機にしよう」とするものです。全国では、近畿と関東の二ブロックが年一回、各県持ち回りで交流会を開催し力にしています。

東海北信越ブロックでは今回初めての開催です。

交流会は

四月六日(土)

午後一時より五時まで

交流会

午後五時より六時半まで

懇親会（別会場）

金沢市・近江町交流プラザ四階 研修室二

どなたでも参加できる開かれた交流会です。学び合う以外の役割負担はありませんので奮ってご参加ください。

三・一〇ビキニデー二〇一三

「核兵器も原発もない世界へ」に参加して

野村幸三

初めて参加し改めて教えられたことは、日本が一九四五年に戦争による広島、長崎への原爆投下、一九五四年三月一日ビキニ環礁での水爆実験の三度の核兵器被害を受け、その放射能への恐怖が原水爆禁止への運動の出発点になっていることでした。

その後半世紀の運動が、国連加盟国の七割を超える国が核兵器全面禁止を求める条約交渉開始を支持していること、しかし、被爆国日本の政府は、アメリカの「核の傘」に依存し、憲法九条と非核三原則を誠実に守る態度を見せていません。地道ではあります。平和委員会の一員として「核兵器全面禁止アピール」署名、「国民平和大行進」等を通じて運動を広げていき、日本政府を核兵器禁止条約交渉のテーブルにつかざるを得ないような世論をさらに高めていく必要があると感じました。

(石川県平和委員会)

三・一〇ビキニデー感想

佐渡亮太

今回二月二十八日、三月一日に初めてビキニデー集會に参加させていただきました。私は二〇一〇年広島で開催された原水爆禁止世界大会にも参加しましたが、核兵器の被害は広島・長崎に留まらないこと、水爆実験が第五福竜丸だけでなく、沢山の船、海域、島など広範囲に大きな被害を与えていた大問題であることを、今回のビキニデー集會で初めて知ることができました。

会場に訪れていたマーシャル諸島上院議員のケ

ネス・ケデイさんのお話では、一九五四年ブラボー実験で「死の灰」を浴び、被害を受けたロンゲラップ島の現状を聞くことができました。除染された区域は全体のごく一部であるにも関わらず、帰島を迫られている現状と、完全に除染されるまで帰りたくないという島民の思いの間で大きな相違があることを知りました。

日本国内で福島第一原発事故の大きな爪跡が残る現在、目指すべきものは制限がある中で折り合いをつけて生活することではなく、ロンゲラップ島の人々が意識するように、汚染される前の完全な状態を取り戻すことではないかと感じました。

放射能被害により暮らしを奪われた人々の現実を知り、現在も事故の危険を孕む原発の存在は危険であると思いました。

また、集會では全国各地で行われている核兵器のない世界をめざす署名活動が紹介されました。こうした署名一つ一つが平和を大切にする人々の思いの表れであり、核兵器廃絶に向けた最も身近なものであると思います。私自身、いきなり大きな平和活動はできませんが、二〇一五年のNPT再検討会議に向けて多くの人々に署名を呼び掛け、また私自身も協力していきたいと思っています。

核兵器の被害にあわれた方々のお話を聞くことが出来る最後の世代であるわれわれが、次の世代に引き継いでいかななくてはいけない貴重な経験をこの二日間で得ることができました。参加させていただいたことに深く感謝します。

(菜の花薬局)

東日本大震災・福島原発事故から二年

三・一〇集會に四五〇人参加

「東日本大震災・福島原発事故から二年 三・一〇集會」が原発をなくす石川県連絡会主催により県教育会館ホールで開かれ、四五〇人の参加があった。東京電力福島第一原発から一六kmの南相馬市で農業を営んでいた亀田俊英さん(ふくしま復興共同センター代表委員)は、原発事故発生から二年経っても一六万人近い避難者(県外五八、〇〇〇人、石川県内に五〇〇人余)が長期に渡る避難生活で体調を崩したり家族の別居、震災関連死も増えており、一日一日大変深刻になっている現状を報告。農業は土地と農家の共同作業であり、原発をなくす長い闘いのなかで安全な土地を取り戻して行きたいと訴えられた。

新潟大学の立石雅昭名誉教授の指導のもと、住民と科学者の共同で北陸電力志賀原発の北約九kmの富来川南岸断層を調査した児玉一八さん(原発問題住民運動石川県連絡センター事務局長)は、二〇一二年六月〜一一月に実施したハンドボーリングや機械ボーリングによる調査結果を報告。標高差約四〇mで隆起変動している富来川南岸(牛下、巖門、猪の鼻、七海等)にて海で堆積した砂の層(海成砂層)を発見した。これは過去に繰り返し発生した地震による活断層の決定的証拠であると指摘し、富来川南岸断層は志賀原発直下の断層とつながっており、志賀原発は即刻廃炉にすべきと強調した。

次いで金森俊朗さんのお話、絵本「ふくしまから

きた子」の朗読、子育てママサークルや福島県浪江町出身の女性の訴え「父母の避難生活をささえて」（代読）、どいね☆原発実行委員会、ピースウォーク実行委員会など多彩な分野から『原発なくせ!』のアピールがあり、参加者の共感を呼んだ。



集会後、「志賀原発を廃炉に!」「放射能からいのちを守る」などプラカードを掲げて県教育会館―香林坊―堅町通り―北陸電力前―金沢歌劇座とアピール行進をした。

(写真は金沢市香林坊をパレードする三・一〇集会参加者)

特別寄稿

梶井幸代先生を追悼して（先生の遺言）

高柳 淳子

昨年一月二三日、先生の訃報。覚悟はしていたのですが……。でもなんとお幸せなご一生。城北病院とは仲良く付き合ひながら、夫先生の手作り玄米食、ヘルパーさんの料理を、車椅子でお庭の見えるテーブルでお二人の食事。そして百二歳の人生を夫先生に看取られながら静かに永眠されました。

思い出しますと京都堀川病院の早川一光先生との対談に始まって、老後問題に向き合った北陸婦人問題研究所（北婦研）はその設立趣旨を大きく飛躍し幅を広げました。老後問題はまさしく婦人問題でしたから。歴史や古典、女性学を超えて。「老後問題を考える石川のつどい」のお誘いに参加し、石川県保険医協会をはじめ福祉問題を軸とした多くの諸団体との交流、学習は刺激となり、活気となりました。

一九九五年には「高齢社会をよくする女性の会」全国大会を金沢で開催するという大イベント実現にまで及びました。また金沢市役所へ「平和都市・非核都市」宣言の陳情も思い出深いものでした。可決された喜びも束の間、いつの間にか「非核」が消され「平和都市宣言」に。市役所前には、「垂れ幕」もないと先生の憤りと落胆。

しかし初志の『石川の女性史』は完成（しっかり福祉を記録）させ、山本有三「郷土賞」を得て上機嫌だった先生。二〇〇八年に北婦研は解散、先生は九七歳でした。

ここで今聞こえてきました「あなた」から。梶井先生の声が……。『有難うございました』と。「あれもこれも、皆様方のお陰。多くの他団体の方々によくお礼を言ってください。そして今地球が危ない。平和憲法が危ない。皆様頑張ってください」と……。

（元北陸婦人問題研究所事務局）

原発のない珠洲から

志賀原発廃炉を目ざして

北野 進

二〇〇三年一月五日、関電、中電、北電の三電力社長が珠洲市役所を訪れ、貝蔵市長（当時）に対し珠洲原発の「凍結」、事実上の撤退を表明した。計画が公になって二九年目、水面下の動きまで遡ると三五年にも及んだ珠洲原発にピリオドが打たれた瞬間である。この間、原発誘致による莫大な経済効果にバラ色の夢を描き、人生を賭けた多くの人がいた。反対を貫き、誹謗中傷にさらされ、かけがえない人生を終えていった人もいる。

原発計画がなくなっても地域の人間関係を修復するには相当の年月を要すると私は覚悟していた。この三か月前、電力撤退間違なしの情報を得た私は反対派の中心の人たちに「これからは市民の融和が最大の課題。地域の中に勝ち組、負け組をつくってはいけない」とお願いした。電力撤退後、反対派は原発の「げ」の字も口にしないように努め、片や推進派も原発計画などなかったかのように振る舞った。結果として、しこりが完全に消え去ったとは言えないまでも、撤退からまだ一〇年も経っていないが、思いのほか早く地域の人間関係は修復され

ていった。

一方、長年続いた「原発が来れば何でもできる。原発が来ないから何もできない」という行政の体質転換も課題であった。こちらも二〇〇六年の泉谷市政の発足と時を同じくして金沢大学の里山里海自然学校が開校し、市外から大規模施設を誘致し地域活性化を図るといふ、いわゆる「外向型発展」志向から、地域の良さを見つけ活かしていこうという「内発型発展」へと舵が切られた。二〇一一年の世界農業遺産認定がこの流れに大きな弾みをつけ、地域の歴史や文化、自然、そしてなによりそこに暮らす人の魅力に目が向けられるようになってきた。



金沢地裁に提訴する「志賀原発を廃炉に！訴訟」原告団、弁護団（筆者は前列右から2人目）

エネルギー問題についても触れるならば、いま珠洲の山間部では風力発電の風車が三〇基回り、自治体別では北陸最大の風力発電基地となった。メガソーラー施設も相次いで開業や着工を迎え、バイオマ

ス資源の活用も進んでいる。ほんの一〇数年前まで、推進派の人たちが鼻で笑っていた光景が、いまや珠洲の日常の景色となっている。

もちろん電力撤退後の珠洲が順風満帆かと言えば決してそうではない。急激な過疎化、高齢化の大幅で地域が危機的状況にあることは間違いない。Iターン、Uターンの元気な人が着実に増えているのが一縷の望みだが、行政も住民もさらにバージョンアップした取り組みが求められている。

私が何より危惧するのは、こうした珠洲の転換期にあつて、議会は機能しているのか、そして原発問題を通じて芽生えた民主主義が果たして根付いたのかという点である。

かつての珠洲市議会は緊張感にあふれていた。市外の人からは、しばしば珠洲は原発の是非の一点で対立していると誤解されてきた。しかし原発誘致によるまちづくりとは、市政のあらゆる課題が原発に関連するということである。市議会では市政全般で活発な論戦が展開され、市民の関心も高まった。また、住民不在でスタートした珠洲原発であるが、その後の幾多の原発選挙は否応なく全市民を巻き込み、お任せ民主主義は許されなかった。原発問題は地域社会の分断をもたらしたが、反面、珠洲にとつて有史以来はじめての住民参加の政治の実現につながった。

電力撤退後の珠洲は、腫れ物に触るように市民の融和を求めてきた。反面、必要な論争まで避け、馴れ合いの地域社会に逆戻りしてはいまいか。

象徴的なのが三・一一後の原発への向き合い方である。日本中の多くの市民が脱原発へ声を上げた

きに、少なくとも県内では珠洲市民の声が一番小さかったように思えてならない。いつまでも原発をタブー視しては、志賀はじめ既存原発の危機から暮らしも命も守ることはできない。

そんな中、「志賀原発を廃炉に！」を掲げ、新たな差止訴訟提訴に向けた動きがはじまった。かつての能登原発計画が公表されて以来四五年目、志賀（能登）原発の廃炉を今度こそ実現しなければならぬ。一号機着工前から指摘されながらも、北電によつて二五年間も隠され続けてきた直下の活断層をあばくたたかいかいでもある。フクシマの悲劇を二度と繰り返してはならないという人類史的課題をかけた提訴でもある。加えて私にとっては、長年わたるたたかいの末に実現した原発のない珠洲を、志賀の事故による放射能汚染から阻止するたたかいでもある。そういう思いから原告団長を引き受け、昨年六月に原告一二〇人で提訴。さらにさる二月六日には二次提訴として福島から県内に避難している五人にも加わっていた。

最大の争点は地震・断層問題である。ご承知の通り、現在、北電の手によつて活断層の再調査がおこなわれている。もちろんこれは二五年続いた活断層隠しをさらに延々と続けるための調査である。裁判態勢の強化が、北電や原子力規制委員会の隠ぺいの動きを大いに牽制することは間違いない。安倍内閣発足で憲法や平和の課題、暮らしを巡る諸課題が山積する中ではあるが、志賀原発廃炉への正念場であり、多くの皆様の裁判闘争への支援、具体的には原告団サポーターへの加入をぜひともお願いしたい。

（志賀原発を廃炉に！訴訟原告団長）

非核平和の内外情勢

第六七回国連総会は

一二月三日、軍縮・国際安全保障担当の第一委員会が承認した五八件の決議・決定を正式に採択した。そのおよそ半数が核兵器関連の決議であった。その多くが人道主義の立場から核兵器なき世界の速やかな実現を求めている。

核兵器保有国による軍縮措置

採択された一連の決議では米ロ間の新START条約締結などある程度評価しながらも、二〇一一年～二〇一二年の核軍備縮小過程の緩慢さを指摘し、怒りを込めて批判した。そうした批判は、核軍備縮小撤廃の多国間交渉についての具体案をまとめるため「作業部会」を設置する決議に結実した。だが、米英仏口の四核兵器国はこの決議に揃って反対票を投じており、作業部会が順調に活動できるか関心が集まっている。

オバマ米大統領の一般教書演説（二月二二日）

内容のほとんどを国内問題に費やし、外交問題ではアフガンの軍事行動を年末までに完了すること、北朝鮮の核実験を非難、イランの核武装阻止など、述べたのみである。

オバマ・安倍会談

米国は日中関係について相当な危機感を持っており米国の基本的姿勢は、米中関係を悪化させないことであり、日本に対して、より冷静な対応を求めている。

隕石落下

ロシアのチェリビンスクは最も重要な核兵器の

生産・貯蔵施設所在地の一つであり、まかり間違えば、隕石が核兵器施設を直撃した可能性があった。この隕石は米国の弾道ミサイル潜水艦に搭載されている一番強力な核弾道弾とほぼ同じ威力である。（二〇一三年二月二二日、非核の政府を求める会常任世話人会藤田俊彦常任世話人の情勢報告から）

非核石川の会 リレーエッセイ

日常

安田 桂子

原発事故が起きてから

自慢の畑の採れ立ての野菜を

誰も口にしなくなり

庭の土いじりも止められ

ばあちゃんは

空気の抜けた風船みたいにしぼんでしまった

朝夕 仏壇の前で

今日も一日皆が息災でありますように

ナムアマミダブツと

鈴を打つ他は

黒い雨でも降るのかと不安げに

窓の外ばかりを眺め

なにがどうなったかさっぱりわからんと

首を傾げ浮かぬ顔で

日がな一日

うすぼんやりと所在なげに座っている

そのばあちゃんが

近頃 夕飯のたび

古い先短いこちらに構わず逃げてくれ

拝むように手を合わせる

年寄り一人 トンデモナイ

姑はビシヤリと遮り

放射能に色か匂いがあれば

とつくの昔に答が出せたのにと

悔しそうに畳の目をなぞり

溜息をつく

退職金まではたい家は手放せん

柱は傾むいてはおらん

舅の髪は

玉手箱を開けた浦島太郎みたいに

あつと言う間にまつ白だ

せてこの子のために

若い者だけで行け

孫に乗せた膝を小刻みに震わせ

薄く咳をする

今 仕事は辞められない

しばらく子供と二人で実家に戻れ 頼む

夫の瞳は思い詰めている

その瞳に押されて

それがいい そうだ そうや

みんなが頷き

息子が泣きべそをかく

ママと二人だけはいや

ああ

空の下で思いきり

バーンと洗濯物を広げ

深呼吸がしたい

ばあちゃんの畑のトマトやきゅうりを
ガブリと丸齧りしたい

しばらくたって どのくらい

これは 誰のせい

私の問いに誰も答えない

ずずずうつ

冷めた味噌汁を啜る音だけがする

幾百もの夜を

眠れない浅い眠りを眠り

ブルーシートに覆われ積み上がっていく

除染した土に囲い込まれ

「日常」は

透明な指に

喉元を締め上げられ

意識が遠退いていく

和定例句会報より

宿題「空威張り」

佳作

星条旗巻いた太刀持ち空威張り

尖閣へ安保があると喚きたて

民主党議席減でも空いばり

世界の目恐れながらの空威張り

暗闇に一パーセントの空威張り

秀作

木偶の身で恥じらいもなく空威張り

軸

尖閣は安保で対処と虚勢張り

星 啓 選

林

大峰

茂明

林

大峰

一杜

詩人会議かなざわ「独標」より

お元気ですか

山口修治

先生 お元気ですか

永久（とわ）に旅立たれてから

もう八年もたったのですね

僕は今年の春 無事に定年を迎えました

先生と出会った四十九年前

中学校一年生のあの三百六十五日は

今も色鮮やかに覚えています

毎日 野球のボールを追いかけて

友だちと取っ組み合いのケンカをし

生まれてはじめて女の子に手紙を出し

授業で手を上げて指しても指してくれないとふて

「努力してもなれない天皇はおかしい」と

先生にくっついてかかったこともありましたね

そんな僕を先生は級長に推薦してくれ

そして

毎日 作法室で諒々と諭してくれましたね

そんな日々の中で

脳性まひの山本くんとも友だちになりました

人として生きていくための基盤を

体験し 失敗し 学び そして身につけた

そんな三百六十五日でした

腕白だった川本くん お転婆だった山田さん
そして山本くんと 今も連絡し合っています

無事に定年を迎えられたのも

先生と出合い

作法室で諒々と諭してもらったおかげです

先生 本当ありがとうございます

先生と再会できる日を楽しみに

いましばらく こちらで生きていきます

二〇一二年度末につき

会費とニュース代納入のお願い

非核石川の会は四月一日より三月三十一日までを会
計年度として活動しております。

勝手申し上げますが、会費、全国の会ニュース代
未納の方はご入金をお願い申し上げます。

(会費 一五〇〇円、ニュース代 一五〇〇円)

未納の方にはお願ひ文とお振込用紙を同封してあ
りますので、ご協力をよろしくお願ひします。

また二〇一三年度からの新規入会も歓迎致しま
す。

非核の政府を求める石川の会常任世話人会

《非核平和・行事予定》

- ・三月二日(金)一八時一〇分：非核の政府を求める石川の会常任世話人会・近江町交流プラザ四階
- ・三月二九日(金)一四時：原発をなくす石川県連絡会代表者会議・平和と労働会館
- ・三月三〇日(土)一三時半：憲法講演会「安倍政権の成立と憲法の行方」講師：渡辺治(二橋大学名誉教授・九条の会事務局員)・労済会館三階ホール・主催：九条の会・石川ネット
- ・四月五日(金)一三時半：映画「一枚のハガキ」上映実行委員会・平和と労働会館・一枚のハガキ観る会
- ・四月六日(土)一三時：非核の政府を求める会東海北信越ブロック交流会・近江町交流プラザ
- ・四月六日(土)一八時半：金沢市民劇場例会「樫の木坂四姉妹」野々市フォルテ
- ・四月七日(日)一五時：市民劇場例会「樫の木坂四姉妹」金沢市文化ホール
- ・四月九日(火)一二時半：核廃絶署名Mza前
- ・四月一三日(土)一〇時半と一四時：新藤兼人監督「一枚のハガキ」上映会・鑑賞券千円・石川県教育会館三階ホール・主催：映画「一枚のハガキ」を観る会
- ・四月一四日(日)と二一日(日)：かほく市会議員選挙
- ・四月二二日(月)と二四日(水)：平和の旅・沖縄基地視察ツアー・主催：石川県平和委員会
- ・五月三日(金)休：輝け九条！憲法施行六八年石川県民集会・鼎談「東アジアの平和と九条」(筋昭三、井上英夫、漆崎英之さん)・石川県文教会館・主催：九条の会・石川ネット
- ・五月九日(水)一二時半：核廃絶署名Mza前
- ・五月一日(土)一四時：立石雅昭・児玉一八出版記念講演会・近江町交流プラザ四階・主催：出版記念講演会実行委員会
- ・五月一九日(日)：立石雅昭新潟大学名誉教授と行く「富来川南活断層」現地見学ツアー・主催：原発問題住民運動石川県連絡センター
- ・五月一九日(日)一四時：石川革新懇総会と記念講演「TPP問題について」講師：真嶋良孝農民運動全国連合会副会長・ITビジネスプラザ武蔵
- ・六月二日(日)午後：非核の政府を求める石川の会総会と記念講演・近江町交流プラザ四階研修室・講演「核兵器廃絶、北東アジアと日本の役割」・講師：五十嵐正博代表世話人
- ・六月六日(木)一二時半：核廃絶署名Mza前
- ・六月九日(日)一三時半：核戦争を防止する石川医師の会第二六回総会・記念講演「アース・ビナード講演会」金沢市文化ホール二階大集会室
- ・六月九日(日)と一四日(金)：国民平和大行進・輪島から内灘まで能登路行進
- ・六月一五日(土)と二四日(日)：国民平和大行進・俱利伽羅から吉崎まで加賀路行進
- ・七月四日(木)と二一日(日)参議院議員選挙(予定)
- ・八月三日(土)と九日(金)：原子爆禁止世界大会・広島／長崎(県代表団は七日と九日長崎大会に参加)
- ・八月一〇日(土)：治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟県本部総会・金沢勤労者プラザ
- ・八月二四日(土)と二五日(日)：日本母親大会

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班 阿部智美



《編集室より》

◎非核・平和を求める市民の願いにこたえるため輪島市は非核石川の会の取材に快く応じて頂きました。輪島市の故・清水正明医師が託された被爆絵画と遺文の会報『非核・いしかわ』紙上などでの紹介にご協力をいただきお礼を申し上げます。今後、非核石川の会では、会報での連載や被爆絵画展などを計画したいと話合っています。当面は平和諸団体が八月六日広島の日、九日長崎の日、一五日敗戦の日の活用ができないのでしょうか。

非核の政府を求める会では「非核平和・東海北信越ブロック交流会」(今回は相談会で四月六日〓金沢)が、この地で初めて開かれます。非核・平和への祈りをこめた市民の集いとなるよう心から願っています。(一)